

【スペイン語学習者向け特別レポート】

世界三大言語の一つであるスペイン語習得で

絶対に押さえておくべき法則



著者 宮崎 博

目次

はじめに.....	3
独学によるスペイン語学習の問題点.....	4
なぜスペイン語会話スクールに通っても伸びないのか？.....	7
なぜ日本人はスペイン語を聞き取れないのか？.....	9
知っている言葉しか認識できない、という絶対法則.....	12
未だに根強く残っている単語暗記学習法.....	13
その教材（参考書）は本当に必要なのか？.....	16
「聞き流すだけ」教材.....	19
厚かましい外国人と控えめな日本人.....	21
特別ボーナス.....	23
おわりに.....	25

はじめに



皆さん、こんにちは。

スペイン語通訳・翻訳者 宮崎博です。いつも私のメルマガを読んで頂きまして、本当にありがとうございます。

今回は、絶対に身に付けておくべき世界三大言語の一つ、スペイン語習得における「絶対に押さえておくべきこと」をレポートにまとめました。

「スペイン語を勉強しよう！」「スペイン語を話せるようになればいいな」ということでスペイン語学習を開始したのは良いものの、何から手をつければ良いのか分からない、そもそもどうやって勉強すれば分からない、という方には必須のレポートとなります。

特に今回は、「絶対にやってはいけないこと」を中心にお話していきたいと思っています。

スペイン語通訳・翻訳者

宮崎 博

独学によるスペイン語学習の問題点

あなたは新しい言語を学び始める時、どのようにしていますか？スクールに通いますか？それとも、誰にも習わずに独学で勉強しますか？どちらも多いと思いますが、まずは、独学でのスペイン語学習についてお話したいと思います。

まず結論から言いますと、独学って本当に**時間の無駄**なのです。時間の無駄と言い切る理由は一体何なのでしょう？

殆どの場合、書店やアマゾンで単語帳を購入することから始めるのではないのでしょうか？そして単語帳に記載されている例文を参考にして単語の暗記から始める方が多いです。でも残念ながら、その方法でスペイン語を習得した人は、歴史上一人もいません(^^)

ここで私が問題にしているのは、「単語の暗記」という勉強方法ではありません。行き当たりばったりで始めた結果、何も身につかないという、その**時間の無駄**が問題なのです。

勿論、目的は人により様々です。自分のペースでのんびりやりたい、という方もいるでしょう。それ自体は悪い考えではありません。では、それでもなぜ私は独学でのスペイン語学習をお薦めしないのか、その独学でのスペイン語学習が**「時間の無駄」**を引き起こしてしまうのはどうしてでしょうか？

スペイン語学習者向け特別レポート

それは、「**正しい手順・方法を知っているかどうか…**」ということに尽きます。これを知らずに勉強していても、最初は新鮮さがあって良いものの、全く効果を実感できずにモチベーションが低下し、そのままスペイン語の勉強を諦めてしまう人が本当に多いのです。

効果が感じられないまま続けていくなんて、これほど辛いことはありません。むしろ、挫折して当たり前なのです。そうならないためには、一体どうすべきなのか？ と言えば、先程も言ったように、「**正しい手順・方法を知ること**」ですよね。

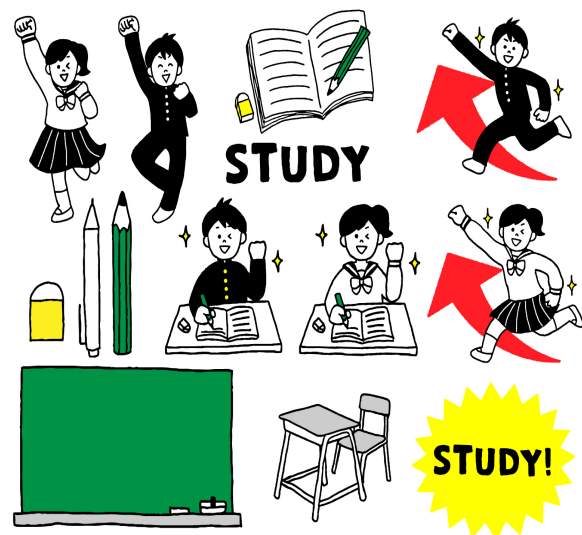
効果があるのかも分からない、根拠のない勉強法で続けるのは、いわば宝くじを買うのと同じことです。宝くじも当たれば良いですが、当たる確率はかなり低く、当たったとしても殆どの人はそのでお金持ちになれるわけではありません。独学でスペイン語の習得を目指すということは、習得できる確率は、その宝くじが当たる確率と同じということなのです。

勿論、スペイン語を学習する目的は人それぞれです。独学で嗜む程度で良いという方もいるでしょう。それはそれで良いのです。ですが、時間というのは、どんなに凄い偉人でも巻き戻すことは出来ませんし、魔法を使って増やすことも出来ません。全ての人間に平等に与えられている唯一のもの、と言っても良いかもしれません。

スペイン語学習者向け特別レポート

私たちは全員、歳を重ねるのです。出来る時にやらなければ、その失った時間はどんなことをしても戻ってはこないのです。であるならば、「正しい手順・方法」を理解し、「最短最速」で習得した方が絶対に良いです。

私もこのことに気付くまでに、沢山の参考書を買ひ、単語帳を買っては暗記し、たくさんお金を費やしてしまいました。何よりも、気付くのに多くの時間を費やしてしまいました…あなたには絶対にそうなって欲しくない、と思っています。



なぜスペイン語会話スクールに通っても伸びないのか？

語学スクールに通い始めたものの、数ヶ月経ってからこのように感じたことはありませんか？

「全然上手くなってないような気がする…」 「このまま続けて良いのかな…」

でも、どうか安心して下さい。スクールに通い出してからこのように感じるのは、あなただけではありません。殆どの方がこのように感じるのです。最初は楽しかったけど、近頃は上達も感じられず、これ以上続けていても上手くなるような気がしない…

実はこの問題は、スクールに非があるわけでもなければ、あなたのせいでもありません。それでも、こういう問題は起こってしまうわけです。

そもそも、スクールに雇われている先生は、スペイン語であればスペイン語が母国語になっている外国人の人となりますよね。当たり前ですが、彼らは生活のためにスペイン語を教えているのです。ですが、彼らは教えるための訓練を受けたわけでもなく、そういう教育を受けているわけではありません。

スペイン語学習者向け特別レポート

要は、日本人学習者がどの部分が原因で苦しんでいるのか、何が原因で話せないのか、なぜ聴き取れないのか、そういう原因が分からないわけです。考えてみれば至極当然のことですよね。私たちにとっての日本語もそうですが、彼らにすればスペイン語は母国語で何不自由なく聞いて話すことが出来るわけです。なので、自分たちの母国語を勉強している外国人がなぜ話せないのか、聴き取れないのか、その原因が分からなくて当然なのです。

だから、スペイン語会話スクールに通い詰めても上達しないわけですね。これも、「趣味で楽しんでやっているから良いの」というのであれば構わないのですが、こういう語学スクールのレッスン料は決して安くはありません。今はオンラインスクールもあり、安いスクールもあるかも知れませんが、それでも、あなたはお金を払って受講しているのです。その対価として、スペイン語のレッスンを受けるわけですから、効果がないまま続けるのは決して良いことではありません。

スクールでネイティブスピーカーのレッスンを受け続けていても、得られるものとすれば、日常生活で使うフレーズ（挨拶や買い物時のフレーズ等）を教えもらえる程度でしょう。でも、それでは話せるようにも聴き取れるようになりません。

スクールに通って受講料を無駄にする前に、その辺りをよく考えましょう(^)スクールにはスクールの役割や効果がありますが、これからスペイン語を学び始めるあなたにとっては、今はまだふさわしくない、ということですね。

なぜ日本人はスペイン語を聞き取れないのか？

これは全ての言語の日本人学習者に共通している悩みかも知れません。でも、理由は簡単です。母国語が日本語だからです(^^) というのは、冗談で、なぜ多くの日本人学習者が「聞き取れない」「何を言っているのかサッパリ分からない」と呪文のように繰り返すような事態が起こっているのでしょうか。

聞き取れない、と悩む人の殆どに共通していることの一つに、「**全部聞き取る**うとしている」ということがあげられます。でも、私たちは日本人同士で話す時に、一語一句全部聞き逃さずに聞いているのでしょうか？ あなたは、相手が言ったことの一部がよく聞こえなかったくらいで、わざわざ話を止めて聞き返したりしているのでしょうか？ 誰もそんな聞き取り方はしていませんよ、ね。

でもどういうわけか、スペイン語を聞き取るということになると、全部聞き取ろうとして力んでしまうわけですね。おそらく、そのような厳密な聞き方をし、て全て聞き取れたことはないはず。あるとすれば、相手が超スローで話してくれた時ではないのでしょうか。

私たちは日本人同士で話していても、全部聞き取れない時はありますよね？ 実はこれ、スペイン語のネイティブスピーカー同士でも同じなのです。ということは、ですよ。ネイティブスピーカーでも全部聞き取れないのに、日本人が全部聞き取れるわけがありません。ていうか、絶対無理ですから(^^)

スペイン語学習者向け特別レポート

つまり、全部聴き取ることは「絶対無理」だということは、**全部聴き取ろうとする姿勢は間違っている**、ということですね。全部聴き取ろうとするから、一つでも聴き取れないことがあると焦ってパニックになり、本来なら聴き取れている部分まで聴き取れずわけが分からなくなってしまう、ということですね。

ならば、逆に「聴き取れなくて当たり前」という感覚でリラックスして聞いてみると良いです。どうせ全部聴き取れないなら、逆に一步引いてみる、ということですね。

人間関係にも共通することですが、「近づきすぎる」と良くないわけですね。お互いに**適度な距離感**が保たれているから、バランスが取れて平穏でいられるわけです。これが、距離感が近すぎると、ほんの些細なことまで気になってしまい、価値観の相違からストレスが溜まったり、衝突したり最悪の場合、関係が波状してしまったりするわけですね。

スペイン語のリスニングも同じことが言えます。「全部聴き取ろう」として近づきすぎるから、相手は窮屈さを感じて逃げてしまうわけですね。つまり、少しでも聴き取れないことがあると、「おいちょっと待て。今、何て言った？」と相手を追い込んでしまい、その窮屈さに耐えられなくなった相手は逃げてしまうわけですね。つまり、全部把握しようと求めすぎたあなたは、スペイン語に嫌われて逃げられる、ということなのです。

スペイン語学習者向け特別レポート

そうではなく、追いかけて、また求めすぎて逃げられるなら、逆に相手を自由にさせてあげる。つまり、「絶対に全部聞き取ってやる！」と意気込むのではなく、もう一步離れ「聴き取れない部分は仕方ないよね、だって日本人だし」という感じでリラックスしてリスニングに臨んだ方が、却って内容をより理解することが出来る、ということですね。



知っている言葉しか認識できない、という絶対法則

これはリスニングの話とも絡んでくるのですが、どういうわけか多くの学習者が、「勉強を続けていればいつか聴き取れるようになる」「いつかはペラペラ話せるようになる」と思い込んでしまっているのです。

勿論、あなたが正しいアプローチで毎日学習を続ければ必ずあなたのスペイン語力は伸びます。ですが、リスニングに関して、殆どの日本人学習者が肝心なことを忘れてしまっているのです。私たちは、「**知っている言葉は認識できるけど、知らない言葉は認識できない**」ということです。知らない言葉は何度繰り返して聞いたところで、絶対に認識できない、つまり「聴き取れない」のです。だって、あなたはその言葉を知らないわけですから。

これは、スピーキングにも同じことが言えます。あなたが知っている言葉は話せますが、あなたが**知らない言葉はどんなに逆立ちしても口から出て来ない**のです。考えてみれば至極当然のことですが、多くの方がこの法則を見落としてしまっているのです。そして、いつか急に「何でも聴き取れるようになる」「どんな言葉でも口から出て来るようになる」と思い込んでしまっています。

でも、これでは魔法になってしまいます(^^) 覚えておいて頂きたいのは、どんなスペイン語の達人も、知らない言葉は聞き取れないし、話すことも出来ない、ということです。なので、聴き取れない、話せないというのは、決してあなたが悪いわけでも、あなたのスペイン語力が低いからでもないのです。

未だに根強く残っている単語暗記学習法

先ほどのお話は、「知らない言葉は絶対に聴き取れないし、話すことも出来ない」ということでしたね。では、知っている言葉を増やせば聴き取れる内容も話せる内容も増えてくるのではないかと多くの人がそのように考えます。

結論から言うと、これは間違ったアプローチです。いや、完全に間違いというわけではありませんが、非常に**非効率**な学習法です。ですが、今までに沢山の英語講師やスペイン語講師が「単語暗記は駄目ですよ」と、それこそ決め台詞のように言い続けていますが、それでも単語暗記という超原始的な学習法に手を染める人が後を絶ちません。

では、なぜこの学習法が非効率なのでしょう？ おそらく、多くの方は書店やアマゾン等の通販で良さそうな単語帳を物色し、「厳選 2000 単語」とか「これだけ覚えれば日常会話は大丈夫」なんてキャッチフレーズのような文言に誘われて気に入ったものを購入してはひたすら暗記を繰り返します。勿論、単語帳には何一つ嘘は書いていません。全て実在するスペイン語の単語です。

ですが、ほぼ全ての単語帳に、ネイティブスピーカーでも知らないような難しい単語が記載されています。それも一つや二つではありません。そういった単語がかなり多く記載されています。これは熟語集にも同じことが言えます。

スペイン語学習者向け特別レポート

または、まず使うことがないような単語や熟語も多く記載されています。殆どの学習者はそのようなことを知らずに、「今日は単語を 10 個覚えた」「今までに 1000 個覚えた」と一喜一憂してしまっています。

しかし、です。ネイティブスピーカーでも知らないような単語や熟語を覚えたところで、それは効果的と言えるでしょうか？ ネイティブスピーカーでも知らないということは、覚えたところで決して使うことのない単語ということになります。そして使わなければ、せっかく苦労して覚えた単語も死語となり、記憶から消え去ってしまうだけです。

知識として増えたとしても、永遠に使うことなく忘れてしまうような学習法が、果たして効率的と言えるでしょうか？ ここは大事なので敢えて言わせて頂きますが、ハッキリ言って**時間の無駄**です…

勿論、単語帳で暗記した単語や熟語が全部使い物にならないのか、というところというわけではありません。中には、あなたの記憶に強固に定着する単語もあるでしょう。ですが、単語だけ覚えても、その使い方、どのシチュエーションで使うのか、どう言ったニュアンスで使われるのか、そのイメージが出来ないまま単語や熟語単体で覚えても使い物にならない、というわけですね。

せっかく苦労して覚えたのに完全に忘れてしまった、なんて経験があなたにもあるのではないのでしょうか？ そして、ここに大きなヒントが隠されています。機会的に無理やり覚えたような言葉は、決して長生きしない、つまり、使い物にならず最後には完全に忘れてしまう、ということです。

スペイン語学習者向け特別レポート

そのような機会的な暗記でも役に立つことはあります。それは、学校での試験対策や DELE の試験対策です。試験対策なら、無理やり詰め込んでおけば、試験で出てきた時には大いに役立ちます。そして試験が終われば忘れてしまっても良いわけです。だって、試験が終わればもう使わないのですから。

でも、本当の意味で「生きたスペイン語」を身に付けたいのであれば、覚えてもすぐに忘れてしまう、なんて非効率な勉強法ではいけないことは理解して頂けました。これで、もうあなたは書店で単語帳や熟語集を購入したり通販で取り寄せたりしなくて良い、というわけですね(^^)



その教材（参考書）は本当に必要なのか？

外国語を勉強したいと思っている人は本当に多く、話せるようになった自分の姿を想像し、夢を膨らませています。本当に素晴らしいことです。勉強をしたけれどもう歳なので…と年齢のことを気にされる方がいらっしゃいますが。むしろ、いくつになっても学ぼうとするその姿勢が本当に素晴らしいと思います。

さて、「スペイン語の勉強を始めよう！」「英語の勉強を始めよう！」「中国語の勉強を始めよう！」と思ったあなたは、まず始めに何をやるのでしょうか？ 恐らくほとんどの人が単語帳や文法書といった教材を購入するのではないのでしょうか。

私は、教材を購入して勉強することが悪いとは思っていません。今時、書店やアマゾン等で販売されている語学の参考書で、悪い内容の参考書の方が珍しいくらいです。どの教材も立派なことが書いてあり、それなりの内容にもなっています。

ではなぜ、この項のタイトルのように「その教材（参考書）は本当に必要なのか？」と投げ掛けているのでしょうか。結論から言いますと、**無用の長物**と化してしまうからなのです。

スペイン語学習者向け特別レポート

殆どの日本人学習者に共通するのですが、例えば、ある参考書を一冊購入して、それをトコトンやり切る人は、まずいません。どうするのかというと、その一冊をやっている途中で、また別の参考書を購入してしまうのです。

勉強を開始しようと思って購入したものの、「やっぱりこっちの本も買った方がいいのではないかな…」「こっちの方がいいのではないかな…」と、別の教材が気になって仕方なくなってくるのです。挙げ句の果てには「あれもこれも…」となり、気がつけばあなたの机には沢山の教材が山積みになっている、ということになっているのですね。

そして山積みになった教材をあなたが使うことなく、埃がかぶってしまうのです。あなたにも思い当たることがあるのではありませんか？(^_^) はっきりと言うと、このようになってしまうくらいなら、同じ教材を擦り切れるまで何度もやった方が絶対に良いです。いや、何でもそうですが、色々なものに手を出すより、同じ教材を何度もやった人の方が絶対に伸びるのです。

どうしても別の教材が欲しいなら、せめて同じ教材を何度もやった上で、もうこの教材では負荷が掛からない、という段階になってからでも遅くはありません。

私もスペイン語の勉強を始めた頃は、教材が沢山ないと不安で、あれもこれもと買い漁りました。でも、一冊もまともに使い切ることはありませんでした。今も部屋の本棚のどこかに眠ったままです。

スペイン語学習者向け特別レポート

結局、そういうことなのですよ。何冊も買ったところで、殆ど使うことなく消えて行く運命なのですよ。どこにあるかも分からずに年末に大掃除をしたら、以前購入した教材が埃を被った状態で見つかった、なんてことになるのです。

教材を買い漁る人ほど実戦で使えるスペイン語力がつかず、しまいには心が折れてしまい、全て教材のせいにしてしまうのです。これでは本末転倒です。そうやって時間もお金も無駄にしてしまう学習者を何人も見してきました。ですが、あなたには絶対にそのようになって欲しくないと思っています。



「聞き流すだけ」教材

語学習得といえば、今ではもう珍しくもなんともありませんが、「聞き流すだけ教材」がすっかり有名になりましたね。「1日〇〇分、ただ聞き流すだけでペラペラに…」「家事をしながら聞き流すだけで…」というようなキャッチフレーズに引き寄せられて「聞き流すだけ教材」を使う人が本当に多いです。

ですが、私は敢えて質問したいです。「聞き流すだけ」で本当にペラペラになりましたか？ リスニング力は伸びましたか？ おそらく、この質問をされたあなたは目をそらしたくなかったのではないのでしょうか。

ここは辛いかもしれませんが大事なことなのでハッキリと言わせて頂きますが、「聞き流すだけ」で聴き取れるようになるなら、今頃語学学習で苦しんでいる人なんていないはずです。でも実際には、多くの学習者が「聴き取れない」「何を言っているかサッパリ分からない」「一体どうすれば良いか分からない」と悲痛な叫び声を上げているのです。

そして、多くの**時間とお金**を費やしたにも関わらず、リスニング力が上がらない、全く効果がなかった、と泣き寝入りしてしまっているという現実があります。一番多いのは、教材の音声は理解できるけど、ネイティブスピーカーの生のスペイン語だと全く聴き取ることが出来ない、という悩みです。

スペイン語学習者向け特別レポート

あなたがこれから会話する相手は、「ネイティブスピーカー」です。教材のスペイン語は、初心者でも聴き取れるようにクリアな音声で比較的にスローな口調で録音されています。だから、実戦でネイティブスピーカーと会話した時に、あまりのギャップに驚き、全く聴き取れないわけです。

また、リスニング力を上げるには、あなたの耳を**スペイン語対応型**に変える必要があります。生まれてから殆どの時間、日本語を聞いてきた耳をスペイン語対応型に変えるには、やはりそれなりの負荷を掛ける必要があります。

そう考えると、「1日に〇〇分聞き流すだけで…」程度の負荷では、スペイン語対応型の耳に変えていくことは難しい、いや、不可能であることが分かって頂けるのではないかと思います。

多くの人は、有名人が広告塔になり、SNS（ソーシャルネットワーク）やTVのCMでの宣伝をみては、期待を込めて購入してしまうのです。ですが、広告塔になっている有名人が実際に話せるわけではありませんし、あなた自身にもそれほどの効果があるわけではありません。

もう、甘い言葉に誘われて「聞き流すだけ教材」を購入するのはやめにしましょう。そうではなく、**正しい聴き取り方**を学び、**正しいプロセス**で練習しましょう。

厚かましい外国人と控えめな日本人

ここで、日本人と外国人のメンタリティーの違いについてもお話しておきましょう。

日本人は、会社の会議や友人同士の会話、学校でのグループディスカッションなど、どんなことでもそうですが、「自分が自分が」という感じで自分ばかり意見を主張する人って敬遠される傾向がありますよね。学校でも、何度も自分の意見を言いたがる子供に対し先生が、「〇〇君、今度は別のお友達に譲ってあげようね」となだめたりしますよね。

でも、外国人は違います。それこそ、これでもかというくらい、自分の意見を主張するのです。日本人が考えるような「私はさっき発言したので…」「自分ばかり発言するとみんなに悪いなあ…」なんて考えや、「あ、どうぞ」と譲り合うような考えはありません。

もう本当に、「またお前かよ…」というくらい、ガンガン発言し、自分の意見を主張するのです。日本では協調性と捉えられることでも、外国人からすると「何で日本人は遠慮ばかりするんだ」「何でもっと自分の意見を言わないんだ」という感じになるのです。

スペイン語学習者向け特別レポート

家庭でも学校でも、自分の意見をしっかり主張するように教えられているのですね。そういう意味では、そういう意見交換の場、社交の場でおとなしく聞き役に回っていると、「何でこの人は自分の意見を言わないのだろう」となり、最悪の場合、**自分の意見がない人=馬鹿だ**、と思われてしまうのです。

(言葉が悪くてすみません…)

これは、外国人が母国語以外の言語で話をする時も同じです。上手い下手は関係なく、その学んでいる言語でガンガン話しまくるのです。日本人なら、「間違えると恥ずかしい…」「こんなことを言うと笑われるんじゃないか…」と思うことも、外国人は全く気にせず話しまくるのですね。

実はここに、スペイン語力向上のヒントが隠されているのではないかと思います。日本人が大切にしている協調性や謙遜は世界に誇れる素晴らしい文化です。これをあなたが捨てる必要はありません。ただ、こと外国語、スペイン語学習という部分では、この日本人のメンタリティが足かせになることもある、ということも事実なのです。



特別ボーナス

このコーナーでは、特別ボーナスということで、日本企業における、一般的な役職名をスペイン語でどのように表現するか、ということで書き出してみたいと思います。自己紹介なんかで使って頂きたいと思います。

但し、日本企業だと会社内での役職に関しては序列が明確になっており、どの企業でもほぼ同じ役職名がついていますが、海外の場合は序列を表すというよりは、社内での役割を表すという意味合いの方が強いです。

また海外の場合、役職名、つまり肩書きへの解釈は各企業によって様々です。主任や係長なんてない会社もありますし、日本では通常は存在する役職が存在しない場合もたくさんあり、名称も企業によって様々です。役職名というよりも、役割を把握し、それに見合った表現をするのがベストと言えるでしょう。

実は通訳の仕事をしていて、日本の方の役職をスペイン語に訳す時に難儀することも多いのです。日本にあるからと言って、同じ役職が海外の企業にあるとは限らないですし、その逆も然りなのです。

余談になりますが、部署名なんかも、日本では企業や役所により様々ですよ。そういう話をスペイン語でする必要がある時は、絶対に事前に準備しておいた方が良いでしょう。では、次ページで確認してみましよう。

スペイン語学習者向け特別レポート

会長 presidente

社長 presidente

副社長 vicepresidente

専務取締役 director general de gestión

常務取締役 director general

本部長 jefe de sección principal

部長 gerente

次長 subdirector

課長 jefe de sección

係長 jefe /encargado

主任 encargado principal

一般社員 empleado general

おわりに

ということで、今回は「スペイン語学習」をやっていく上で、特に「絶対にやってはいけないこと」についてレポートをお届けいたしましたが、いかがでしたでしょうか。

これを読んで、「お話してくれて良かった」「先にこういうことを知ることが出来て良かった」と思われたのであれば本当に嬉しく思います(^^)

実際、スペイン語学習をやっていく上で「絶対にこの方法で勉強しなければならない」というルールは存在しません。つまり、あなたに合う、最も適した方法で楽しくやれば良いのです。いつ、どこで、どんなやり方でスペイン語を勉強するかは、あなたの自由なのです。

ただ、その中でも、「絶対にこれはやってはいけないこと」「それをやると確実に無駄になる・遠回りになる」という観点で抑えておくべきポイントがあります。

実際に何も知らずにスクールに通い続け、高額な授業料が掛かった割には実力が伸びなかったという人や、もう何年も続けているのに全然伸びない、と悩んでいる方もいます。そんな方達にとって少しでもお役に立てるのなら、心から嬉しく思います。